

9 大会諸経費

大会資料費 2,000円 (資料参加の場合も同額です)

10 参加申し込み [期間] 令和3年7月5日(月)～8月27日(金)締め切りまで

(1) 各自、又は、各市町の代表者が、研究会ホームページよりお申し込みください。大会資料費は、地区会長にお支払いください。

兵庫県中学校技術・家庭科研究会ホームページ <https://www.hyogo-jhs-gika.net/>  
研究会ホームページへは、右のQRコードでもつながります。



(2) 地区会長は、地区の参加費をとりまとめ、下の中播磨本部の口座にお振込みください。(持参いただいても結構です。)

ゆうちょ銀行 中播磨地区中学校技術・家庭科研究会 代表者 坂本 泰三  
【店名】四三八(読み:ヨンサンパチ) 【店番】438 【預金種目】普通預金 【口座番号】9043741

各教育委員会教育長様  
各国・公・私立中学校長様  
各技術・家庭科担当教員様  
関係者様

兵庫県中学校技術・家庭科研究会  
会長 中尾 弘二  
中播磨地区中学校技術・家庭科研究会  
会長 坂本 泰三

第49回兵庫県中学校技術・家庭科研究大会(中播磨大会)  
ご案内

初夏の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

みだしの会を、中播磨地区で開催いたします。学習指導要領の趣旨をふまえ、本県の研究主題「持続可能社会の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育む技術・家庭科教育」のあり方を求めて、県下の先生方が集い、研鑽を積みたいと思います。本年度もまだまだ新型コロナウイルス感染症の収束が見えない状況であります、先生方に安全に、安心して大会に参加して頂けるよう、会場と日程について検討を行い、今年度は半日での開催とさせていただきます。

つきましては、このような状況の中ではありますが、お一人でも多数の先生方にご参加いただき、充実した実り多い研究大会にさせていただきますようご案内申し上げます。

開催要項

- 1 主催 兵庫県中学校技術・家庭科研究会  
中播磨地区中学校技術・家庭科研究会
- 2 後援 兵庫県教育委員会  
姫路市教育委員会 神河町教育委員会 福崎町教育委員会 市川町教育委員会
- 3 期日 令和3年10月8日(金)
- 4 会場 【全体会・分科会】姫路市文化センター  
〒670-8544 兵庫県姫路市西延末426番地1  
TEL.079-298-8011 (ホール代表)

※ 姫路市文化センターは、JR姫路駅より南西約2キロ、手柄山中央公園の一角にあります。  
※ お車でお越しの際は、姫路バイパス [中地] を下車、北進して【陸上競技場前】交差点を右折、そのまま直進して歩道橋手前の道を左折。**併設の有料駐車場(200円)をご利用ください。**  
※ 山陽電車手柄駅から(約600m)徒歩約15分。踏切を渡り、そのまま西方向に直進。つきあたりを右折してください。

11 会場案内図



12 大会事務局

- (1) 県本部 三田市立長坂中学校 中尾 弘二  
〒669-1355 三田市長坂 484  
(TEL 079-568-1307 FAX 079-568-1198)
- (2) 県事務局 加古川市立陵南中学校 堀田 将司  
〒675-0019 加古川市野口町水足 333-333  
(TEL 079-421-3381 FAX 079-421-3386)
- (3) 中播磨地区本部 姫路市立家島中学校 坂本 泰三  
〒672-0102 姫路市家島町宮 1877-2  
(TEL 079-325-0049 FAX 079-325-2575)
- (4) 中播地区事務局 姫路市立安室中学校 内藤 章  
〒670-0081 姫路市田寺東二丁目 6-1  
(TEL 079-293-2761 FAX 079-295-9661)

## 5 研究主題

### 「持続可能社会の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育む技術・家庭科教育」 ～ 見方・考え方を働かせる課題解決的な学習を通して未来を切り拓く力を育む ～

## 6 本研究大会（中播磨大会）における副題設定の理由

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、技術革新による生活様式の多様化など、変化が激しく予測困難な現代社会において、子どもたちが、社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのように未来を創っていくのか、自ら目的について考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるための力を身に付けておく必要がある。その際、これまでの学校教育の蓄積を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成しなければならない。

技術・家庭科においては、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通し、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力の育成が求められる。そのため、本学習において、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、生活と技術についての基礎的な理解や技能を習得し、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定して解決する力や、実践を評価・改善し、表現するなどの力を養い、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育てたい。このように社会状況の変化に対応した技術・家庭科教育を推進すべく、副主題を設定した。

## 7 指導助言及び講演

演題 「新しい学習指導要領に基づく技術・家庭の実践のポイント ～指導と評価の工夫～」

技術分野 兵庫教育大学大学院 教授 森山 潤 先生

家庭分野 兵庫教育大学大学院 教授 永田 智子 先生

## 8 日程

13:00 13:20 13:40 14:10 14:20 14:35 14:50 15:10 16:00

受付	開会式 表彰等	中播磨の 取り組み	移動 休憩	実践発表Ⅰ	実践発表Ⅱ	発表内容に 係る協議	講演
全体会 大ホール				分科会	大ホール：技術分野		小ホール：家庭分野

※ 1階の展示室では、午後12:00時から業者展示を行います。

## 9 新型コロナウイルス感染症対応について

- 当日、各自で体温チェックを行って頂き、ご参加ください。ホール入り口では、アルコール消毒を必ずお願いいたします。参加者は、健康状態に留意し、発熱等風症状がある場合は、参加を見合わせ、各地区代表等に欠席の旨お知らせください。また、同居のご家族等に発熱等の風邪症状が見られる場合も、同様に参加を見合わせてください。（ただし、ご家族が風邪症状のため医療機関で診察を受け、新型コロナウイルスに感染していないと判断された場合は、参加可能です。）
- 大会会場の定員は、大ホール、約1600名、小ホール、約500名となっており、1つ席を空けて使用することができ、安全・安心に留意して施設を利用します。また、展示室も床面積が500㎡あり蜜を避けて展示を行います。
- マスク、名札（各学校で使用の名札）、筆記用具（座席番号記入用）を忘れずに持参してください。
- 当日欠席者については、分科会後、各地区代表者が、資料参加者の大会紀要を持ち帰り、配布してください。

【全体会】 <司会> 兵庫県中学校技術・家庭科研究会副会長 井上 智美

### (1) 開会式

- |          |                     |         |
|----------|---------------------|---------|
| ① 開会のことば | 兵庫県中学校技術・家庭科研究会副会長  | 鈴木 茂士   |
| ② 会長あいさつ | 兵庫県中学校技術・家庭科研究会会長   | 中尾 弘二   |
| ③ 表彰     | 前兵庫県会長（東北播磨地区）      | 利一 裕 様  |
|          | 前兵庫県常任理事（神戸地区副代表）   | 弘内 幸男 様 |
|          | 元兵庫県会長（阪神地区）        | 星川 雅俊 様 |
|          | 前兵庫県常任理事（阪神磨地区）     | 鈴木 美臣 様 |
| ④ 講師の紹介  | 前兵庫県常任理事（西播地区会長）    | 藤田 修一 様 |
|          | 前兵庫県常任理事（但馬地区会長）    | 橋本 友明 様 |
|          | 前兵庫県常任理事（淡路地区会長）    | 谷 宣憲 様  |
|          | 兵庫県中学校技術・家庭科研究会会計監査 | 辻村 隆    |

### (2) 研究発表 「中播磨地区の取組と今後の課題」

- |                |        |
|----------------|--------|
| 福崎町立福崎東中学校 教諭  | 立岩 秀将  |
| 姫路市立高丘中学校 主幹教諭 | 林 賢二   |
| 姫路市立大津中学校 教諭   | 足立 亜矢子 |

(3) 閉会のことば 兵庫県中学校技術・家庭科研究会副会長 垣内 修

(4) 諸連絡 兵庫県中学校技術・家庭科研究会事務局長 堀田 将司

## 【授業実践発表】

分野	授業内容	指導者	題材	会場
技術分野	(実践発表Ⅰ) A 材料と加工の技術	喜多山 裕人 (花田中)	「材料と加工の技術」における工具に込められた工夫を読み取り見方・考え方に気づく学習	大ホール
	(実践発表Ⅱ) B 生物育成の技術	荒木 勇司 (白鷺小中)	生活や社会とつながる水耕栽培による問題解決を図る「生物育成の技術」の学習	
家庭分野	(実践発表Ⅰ) A 家族・家庭生活	黒田 景子 (広嶺中)	高齢者体験を通して、地域の高齢者が住みよい社会を目指そう	小ホール
	(実践発表Ⅱ) B1 衣食住の生活 (食住生活)	小西 知陽 (夢前中)	知識で変わる商品選択 ～健康・快適・安全な生活を実現しよう～	

## 【分科会発表】

内容	地区	実践発表者	題材・主題
A 材料と加工の技術	阪神	木下 幸司 (猪名川中)	材料による厚みを理解し、適切な加工法の工夫
B 生物育成の技術	神戸	古賀 寛唯 (兵庫中)	地域に根差した生物育成 ～コンパニオンプランツの活用で神戸市の栽培を支える～
		新井野 拓 (須佐野中)	
D 情報の技術	東北播	中嶋 宏彰 (黒田庄中)	ドリトルを利用した情報活用能力の育成
	丹有	田鎖 浩太 (富士中) 相澤 崇 (藍中)	よりよい生活の実現に向けて、主体的に工夫・創造する生徒の育成 ～双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決～
A 家族・家庭生活	阪神	斎藤 裕可 (川西南中)	地域・高齢者との関わりの持てる生徒の育成～地域の人々と協力・協働する家庭生活を目指して～
B1 衣食住の生活 (食住生活)	丹有	東尾 要子 (上野台中)	食材のよさを活かした調理が実践できる生徒の育成 ～日常食の調理に活かせる「煮る・焼く・蒸す」の調理実験体験を通して～
B2 衣食住の生活 (衣生活)	神戸	三原 亜子 (丸山中) 山内 祐美 (横尾中)	環境に配慮した衣生活の工夫 ～リメイクによる持続可能な衣生活を目指して～
C 消費生活・環境	東北播	菊池 亜紀子 (西脇南中)	環境に配慮した衣生活を考え、よりよい消費生活につなげよう